

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700311		
法人名	メディカルケア御所ノ内株式会社		
事業所名	御所ノ内ホーム ごじょう西小路 (2階 東山)		
所在地	京都府京都市右京区西院追分町5番地		
自己評価作成日	令和2年12月20日	評価結果市町村受理日	令和3年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyousoCd=2690700311-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地1「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	令和3年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人おひとりが安全に健康に過ごせるよう介護職員、看護師が小さな気づき、変化も見逃さず情報を共有して共に支援している。その方の持つておられる強みを引き出し、その方らしく過ごして頂けるよう支援している。コロナ禍で外出制限中であるが、ユニットごとに工夫してイベントを実施し楽しくお過ごし頂いている。月3回、ブログでご利用者の様子を伝え、ご家族に安心して頂けるよう図っている。京都武田病院と医療連携を図り、定期的訪問診療の他、必要時、迅速に受診できる体制が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は平成29年3月に開設され、グループホーム(3ユニット)と小規模多機能型居宅介護事業所で構成されています。理念は「①家庭的で温かなケアを提供します。②一人ひとりに寄り添うケアを心懸けます。③確かな知識、技術、方法でケアを行います。」掲げ、利用者の平均年齢87歳、平均介護度3.1です。今年度はコロナ禍で面会や外出、外部の方たちを招いての行事の自粛を余儀なくされていますが、各ユニットごとに行事を組み利用者の笑顔を絶やさないよう支援しています。その様子は毎月の手紙やブログ、広報紙で家族に届けています。職員は、使用頻度の高いトイレの掃除は1日に3回実施し、リビング(椅子、テーブル、手すり含む)や居室は掃除機と消毒剤も使用した拭き掃除を毎日おこない、清潔に留意して利用者の支援に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関と各フロアに掲示している。毎週月曜日の朝礼で唱和し、理念に基づいたサービスの提供を心掛けている。	今季の目標達成計画に「・本人の笑顔が引き出せる個別あるいは小人数での外出・自然災害訓練の実施、非常食の備蓄・家族の意見をサービスの質の向上につなげる、家族会の結成・運営推進会議での評価を職員間で共有(一部抜粋)」がある。各ユニットでは各目標ごとに、年間目標と具体的な行動計画を策定して半年毎に振り返り、日々の意識付けとケアに生かしている。職員とのヒヤリングの中で理念の浸透が図られていることが確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、新型コロナウイルス感染対策として、地域との交流(偶数月の保育園児来所など)は行っていない。隣接のスーパーへも職員のみで買い物に行っている。	地域のふれあい祭や地蔵盆、2か月ごとの保育園児の来訪、各種ボランティアの受け入れも今年は中止を余儀なくされており、地域住民との交流活動は停止している。ただ、訪問理美容は、2か月に1回にして継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ブログを月3回更新し、認知症の方の日常の様子や行事での笑顔を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、新型コロナウイルス感染対策の為に、3月以降、会議を中止している。メンバーの方には、意見を伺い報告書を作成、頂いた意見はサービス向上に活かしている。	会議メンバーは地域代表を含め多彩である。会議は現状書面開催となっている。議事録を送付したり手渡したりで意見交換をおこなっている。構成メンバーからの意見や提案は、次回の運営推進会議報告書に記載している。全家族にも送付している。今季、職員が会議内容をサービスに生かす取り組みとして、職員の会議への参加を掲げていたが、会議の開催がなく実現できていない。	

京都府 御所ノ内ホーム ごじょう西小路 (2階 東山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、入退去、事故等について報告している。	行政へは、運営推進会議録や利用者入退去、事故報告など、必要書類を提出する機会を捉えて相談や助言を得て連携を深めている。行政主催の諸会議は今年は開催されていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、内部研修を実施し全職員の理解を深めている。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体的拘束適正化委員会」は、各ユニットから1名ずつ職員が参加して、3か月ごとに開催している。内容はリーダー会議で伝え、各ユニット会議で報告している。ユニット会議での検討内容が確認できなかった。内部研修も定期的実施して、マニュアルに基づき知識と技術を高め、ケアの充実につなげている。スピーチロックは職員間で常に注意し合っており、全職員が共有するように努めている。玄関やフロア入り口の施錠は、利用者の状況によって検討しており、施錠する場合は運営推進会議で了解を得ている。	リーダーからの、身体拘束適正化委員会内容の報告時には、職員間でも話し合われているのではないかと期待の防止を含め、職員一人ひとりの日頃の取り組みなど話し合い、認識を深める機会にされることを期待する。記録に残すことも望む。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学ぶ機会があり、小さな異変も見逃さないよう心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で取り上げ学習している。成年後見制度については、ご家族が利用を決定され、後見人さんには御本人の様子を伝えたり必要な連絡などを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族の不安や疑問に対し理解を得られるよう図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族の意見、要望についてはユニット内で周知し、必要な場合は話し合い要望に沿うようにしている。運営推進会議で家族から出た意見は、職員に周知している。	目標達成計画に「家族とのコミュニケーションの一層の励行や無記名での意見聴取」を上げて取り組んでいる。コロナ禍で家族との面会は、ガラス越しや2m離れてなど感染状況に合わせており、意向確認は電話やメールでもおこなっている。顧客満足度調査は今期から法人でおこなうことが決まった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、リーダー会議の他、随時、聞いて運営に反映するよう努めている。	管理者は、諸会議や各種委員会で職員の意見や提案を聞いているが、必要に合わせ個人面接もおこなっている。日頃の職員の頑張りを認めて責任分担を決めたり、職員の事情を聞き勤務調整をしている。リーダー会議は連絡事項が多い。リスク委員より誤薬防止策の提案があり、ダブルチェックの徹底など決めている。執務考課制度があり、年2回「自己評価表」を職員は提出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況について把握するよう努めている。職員の事情に合わせ勤務条件は、柔軟に変更している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修をオンライン受講できるよう整備中である。内部研修は定期的を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、事業者連絡会が中止になったりオンライン環境が整備できていなかったりで同業者と交流できていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご本人との面談の他、今まで関わりのあったケアマネ、訪問看護師さんなどからもご本人の不安、要望を聞きご本人が安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、契約時、入居当日とサービス導入前に3回は、不安や要望を聞き、安心頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に義歯作成を希望された方に、速やかに訪問歯科を依頼するなど対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話を楽しみながら、負担にならない家事を一緒に行い労いの言葉を掛け、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限中の為、家族にはご本人宛の電話やFAXをお願いしている。月1回様子を伝える写真入りお便りを送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方から贈り物が届いた時には、ご本人が電話でお礼を伝えられるよう支援している。	アセスメントシートに、馴染みの人や場所、趣味や習慣の情報は聴取している。東寺へ散歩に行っていた方は、家族と一緒に出掛けている。コロナ禍で面会も制限される中でも、訪ねてくる友人もおられガラス越しで面会している。職員は利用者が親しい人達を忘れないように、写真を見ながら話題を提供している。また、日常の利用者の様子は広報紙やブログ、毎月の手紙で家族に届けている。管理者も毎月事業所情報を報告している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が穏やかに支え合って過ごせるよう座席に配慮している。日々のレクリエーションや行事で関係を深められるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	急逝された方のご家族へは、来所や電話の際、配慮して声掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のフロア会議で、ご利用者の様子、問題点を話し合い、ご本人のニーズに合ったサービスの提供に努めている。	アセスメントシートで利用者の思いや暮らし方の希望は聞き取っている。入居後は赤字で追記しているが、日付の記載がないので、書く方が望ましい。職員間で共有が必要なものは申し送りノートに書き引き継いでいる。高島屋での買い物希望された方とは、一緒に買い物に行った。どんな声掛けにも「はい」と答える方がおられ、職員は表情やしぐさで思いを感じ取っている。	

京都府 御所ノ内ホーム ごじょう西小路 (2階 東山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に得た情報を元に、ご本人との会話を深め把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	小さな気づきも個人記録に記入し、職員全員が現状を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の要望、介護スタッフ、看護師の意見を聞き介護計画を作成している。	毎月のユニット会議で、利用者全員のカンファレンスをおこない、状態の変化や気づきなど話し合って情報の共有もしている。6か月ごとにモニタリング、12か月ごとに家族の意向を踏まえ、見直して家族に介護計画の承認を得ている。介護記録に、介護課題に焦点を当てた記録は乏しい。	カンファレンスでは各介護課題ごとにサービスの内容に焦点を当て「援助は計画に沿っておこなっているか、サービスの内容は適切か修正か、ご利用者(家族)がどのように反応したか(言葉や態度)」など、その後には他の気づきも話し合っではどうか。記録は個人の介護記録に残すことをお勧めする。また、日々の記録でも介護課題に焦点を当てた記録が増えることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記入し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関連病院以外の受診の付き添いを家族ができない時は、看護師が付き添っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は近隣の公園、スーパーに出掛けていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医について伺い、希望された方には関連病院から月2回、訪問診療がある。関連病院の受診には看護師が付き添っている。	利用者全員が、協力医療機関をかかりつけ医として訪問診療を受けている。他に希望者には、歯科医の往診もある。協力医療機関への受診は看護師が同行し、他の病院受診は家族が同行している。受診時の情報は連絡ノートに書き、職員間で共有している。夜間のオンコールは看護師が受け、指示をしている。緊急時の救急搬送は協力病院が受け入れが困難な場合は、近隣の救急病院に搬送し、管理者か看護師が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、ご利用者の些細な変化も看護師に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の相談員との連絡や、関連病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方についてご家族の意向を伺っている。	「看取り介護に係る指針」を定めており、入居時に「事前意向確認書」をもとに、家族の意向を聞き取って同意書を得ている。急変される利用者もおられるが、早めの受診を心掛けている。家族からは「バックに病院があるので心強い」との言葉がある。協力医療機関からの退院直後は、病院から看護師が来所して、様子観察や点滴など、必要な処置を受けている。看取りをしたケースはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や救急救命講習、AEDの使い方講習を受講している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練では、新入職員を各階の担当にし全職員が利用者の避難方法を身につけられるよう図っている。	昨年までは、年2回消防署の指導を受け防災訓練をおこなっている。今年度1回目は自主訓練で利用者とともにエレベーター前までの避難などおこなった。自衛消防編成表は作成している。課題である自然災害の訓練は、3月に予定している。備蓄は各ユニットごとに水と缶詰類を2日分程度準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居時に、ご家族に避けるべき話題を確認している。ご利用者の尊厳を尊重した対応を心掛けている。	認知症ケア、プライバシー保護については研修に組み込んでいる。トイレ介助時の見守り方法、利用者との親しすぎない関係の取り方など話し合っている。職員から「自分の家族だったらこうしてほしいだろうと考え、利用者の情報を職員間で共有して介護(技術、知識)をしています」との言葉が聞けた。利用者の個人情報はSNSに載せないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的にご利用者が意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の思い、身体状況を把握し一人ひとりのペースに合った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着たい服を選べる方は自分で、選べない方は選べるよう支援している。訪問理美容の際は、好みの髪型やカラーにできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、お盆拭き、下膳などを行っている。	昼食と夕食の副菜は業者から弁当で届く。食器に移し替え、事業所で炊いたご飯とともに提供している。敬老の日には、松花弁当でお祝いをおこなった。朝食は職員が調理している。昼、夕の主食が白ご飯のため、朝食で炊き込みご飯や寿司、麺類、パンなど提供している。手作りおやつの日を設け、ホットケーキやたこ焼き、白玉団子など楽しんでいる。	

京都府 御所ノ内ホーム ごじょう西小路 (2階 東山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分は摂取量を記録し、一日分を通じて確保できるよう支援している。必要があれば義歯調整を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録により、排泄間隔や尿量を把握し、声掛けや誘導を行い、適したパッドを使用している。	トイレでの排泄を基本にして支援している。活動的な日常生活や生活リハビリテーションの励行で、夜間紙おむつだった方が、ナースコールで介護士を呼びトイレに行くようになり、車椅子の運転を足も使うことで自ら移動できるようになるなど、リハビリパンツへ移行している。利用者個々の状況に合わせて対応しており、夜間のみポータブルトイレの使用もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日2回の体操への参加促しや腹部マッサージ、水分摂取の促し、オリゴ糖の使用などで便秘予防を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の意思を尊重し、ご本人の入浴したいタイミングで入って頂くようにしている。	入浴は週2回を基本に午前中に実施している。湯は一人ひとり入れ替え、希望者には同性介助である。バスクリンや温泉の素でリラックス効果を高めたり、季節湯(菖蒲湯、ゆず湯)も提供している。利用者の好みや皮膚が弱いなど個人持ちでのシャンプーなどの方もおられる。入浴を拒否される方には、時間をずらして誘うや入浴日を変えるなどで対応している。入浴したことを忘れないように、カレンダーに印をつけている方がおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝付けない方は傾聴したり、希望の室温にするなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人のファイルに入れ、内容を把握するようにしている。薬に変更、追加があった時は、全職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のその時の意思を尊重して、役割や楽しみを感じて頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染対策で外出を制限している。	例年なら、週3~4回の散歩や買い物、イオンモールのイベントへの参加などで外出の機会が多いが、コロナ禍では全面的に自粛している。今年度の目標達成計画に「馴染みの場所に限らず本人の笑顔が引き出せる場所に、個別あるいは少人数で出かけて気分転換し、楽しい時間を過ごして頂く」がある。コロナ禍で取り組めていない。	利用者の外出の機会が多いと認識しているが、その中でも個別支援に取り組もうとの姿勢がある。評価(8)の馴染みの人や場所との途切れない関係支援も踏まえ、コロナの脅威が減少したときには、家族の協力も得て実現できることを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望されるご利用者は少額を所持し、その他の方はユニット金庫で預かって買い物や支払いを代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を取り次いだり、自分で携帯で電話されたりしている。		

京都府 御所ノ内ホーム ごじょう西小路 (2階 東山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の温度、明かりは希望や状況に合わせて調節している。季節に合わせた装飾品で季節を感じて頂けるよう工夫している。	リビングは南側に窓があり明るい。杖や歩行器、車椅子の利用者がおられ、動線を確保したテーブルの並びになっている。利用者の座る席は相性で決めているが、コロナ禍を配慮して対面にならない一方向にしている。壁に全員で作成した大きなお鏡や雪だるまの絵やちぎり絵が、新春を祝っている。掃除は職員が毎日おこない、手すりや椅子、テーブルなど消毒液で適時拭き、換気とともにコロナ対策を実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、自分の席から離れられるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッド以外、ご家族が準備されたものである。ご家族の写真や馴染みの物を飾るスペースを作るよう工夫している。	職員は転倒のリスクにつながるハンガーラックなど不安定なものは、持ち込まないよう協力を依頼している。小タンスや整理ボックス、テレビ、椅子、色々な小物、写真など思い思いに設置しており、整理は行き届いている。職員は毎日掃除機をかけ、消毒剤も使用して拭き掃除をおこない、清潔な環境を提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレは、大きな文字や絵で表示わかりやすく工夫している。		